

2018年1月31日 全7頁

## Indicators Update

# 2017年12月鉱工業生産

生産は堅調さを維持。一方、iPhone 減産で電子部品・デバイスは▲1.9%の生産下押しの可能性

経済調査部

エコノミスト 前田 和馬

エコノミスト 小林 俊介

### [要約]

- 2017年12月の生産指数は前月比+2.7%となった。生産が3ヶ月連続、出荷(同+2.7%)が2ヶ月連続で増加し、在庫は同▲0.4%と減少した。製造工業生産予測調査で見ると、2018年1月：同▲4.3%、2月：同+5.7%となっている。
- 世界経済の回復による輸出拡大を受けて、生産は堅調さを保っているといえよう。ただし、12月の生産が市場コンセンサス(前月比+1.5%)を大きく上回ったのは、輸送機械工業の一時的な増産によるものである点には留意する必要がある。
- 1月以降、電子部品・デバイス工業の計画が強い(1月：前月比+4.8%、2月：同+13.5%)だが、この計画にはiPhone減産の影響は反映されていない可能性が高い。2017年1-3月期のスマホの世界生産台数と日本の電子部品・デバイスの用途向けシェアを踏まえると、iPhone減産は電子部品・デバイス工業の生産を▲1.9%下押しする可能性がある。
- 2018年3月以降に関しては、非常に緩やかな増産を見込んでいる。資本財については、世界経済の回復を背景として、産業用ロボット等を中心とした輸出拡大が全体を牽引するだろう。一方、外需の下振れリスクには警戒が必要である。Fedの出口戦略に伴い米国の金利が急速に上昇する場合には、米国経済の下押し圧力になることに加えて、新興国市場からの資金流出を招く懸念がある。

図表1：鉱工業生産の概況（季節調整済み前月比、%）

	2017年										
	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	
鉱工業生産	▲1.9	+4.0	▲3.6	+2.2	▲0.8	+2.0	▲1.0	+0.5	+0.5	+2.7	
コンセンサス										+1.5	
DIR予想										+2.0	
出荷	▲0.8	+2.7	▲2.9	+2.5	▲0.7	+1.8	▲2.5	▲0.4	+2.3	+2.7	
在庫	+1.5	+1.5	+0.0	▲2.0	▲1.1	▲0.6	+0.0	+3.2	▲0.8	▲0.4	
在庫率	+0.2	+2.9	▲1.9	▲1.9	+2.6	▲4.1	+1.6	+3.5	▲2.7	▲0.5	

(注) コンセンサスはBloomberg。

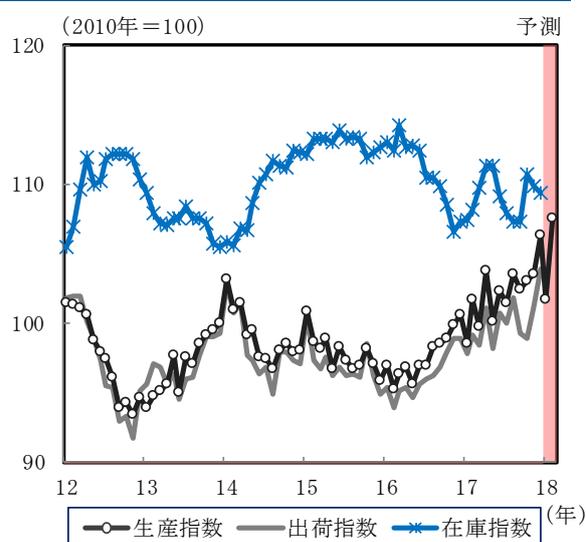
(出所) Bloomberg、経済産業省統計より大和総研作成

## 生産は堅調さを維持

2017年12月の生産指数は前月比+2.7%となった。生産が3ヶ月連続、出荷（同+2.7%）が2ヶ月連続で増加し、在庫は同▲0.4%と減少した。製造工業生産予測調査で見ると、2018年1月：同▲4.3%、2月：同+5.7%となっている。

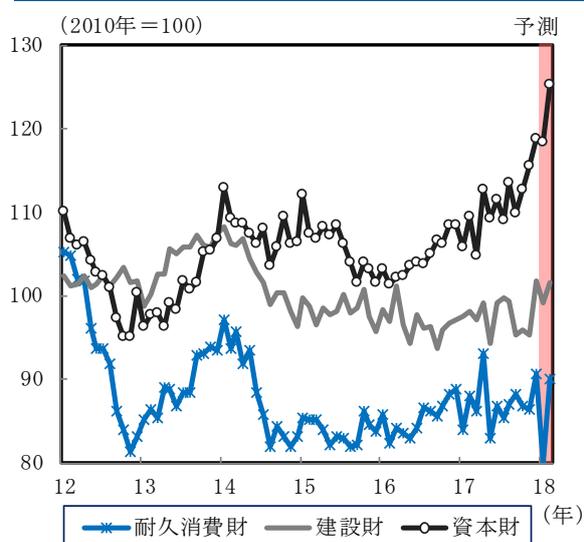
世界経済の回復による輸出拡大を受けて、生産は堅調さを保っているといえよう。ただし、12月の生産が市場コンセンサス（前月比+1.5%）を大きく上回ったのは、輸送機械工業の一時的な増産によるものである点には留意する必要がある。

図表2：生産・出荷・在庫



(注) 生産指数の直近2ヶ月の値は、製造工業生産予測調査。  
(出所) 経済産業省統計より大和総研作成

図表3：生産指数の財別内訳



(注) 直近2ヶ月の値は、製造工業生産予測調査。  
(出所) 経済産業省統計より大和総研作成

## 全15業種中、12業種が上昇

業種別に見ると、輸送機械工業やはん用・生産用・業務用機械工業などが生産全体を押し上げた。品目別では、普通乗用車やショベル系掘削機械が上昇に寄与した。

輸送機械工業については、12月の生産を大きく押し上げたものの、国内外ともに新車販売に減速感が見られていることから、1月に大幅な減産を見込んでいる点（製造工業生産予測調査では、2018年1月：前月比▲17.7%、2月：同+9.8%）には留意する必要がある。

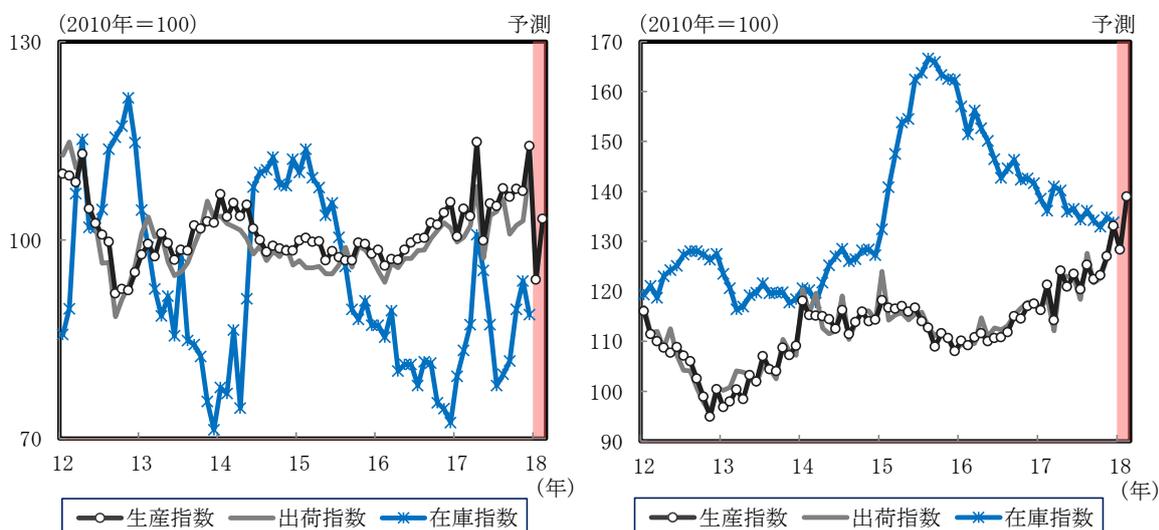
他方、低下した業種は、情報通信機械工業、石油・石炭製品工業などの3業種であった。

### はん用・生産用・業務用機械工業は、堅調な推移が続く見込み

製造工業生産予測調査によると、2018年1月：前月比▲4.3%、2月：同+5.7%である。また、経済産業省が公表した先行き試算値については、1月は同▲4.3%の低下（最頻値）となっている。

予測調査を業種別に見ると、増産基調が続いているはん用・生産用・業務用機械工業は、2018年1月：前月比▲3.6%、2月：同+8.3%となっており、1月は減産となるものの、堅調な推移が続く見込みだ。ただし、当業種は計画時点から生産が下振れする傾向が強いため、数値は割り引いて見る必要がある

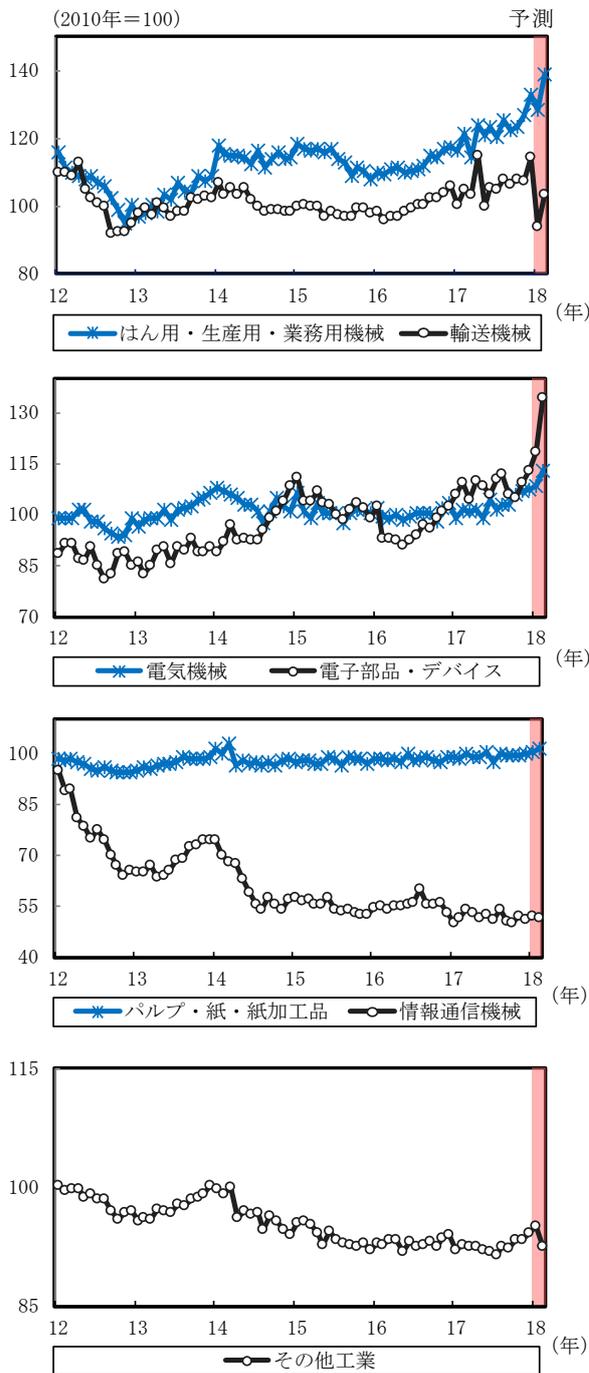
図表4：生産・出荷・在庫（左：輸送機械工業、右：はん用・生産用・業務用機械工業）



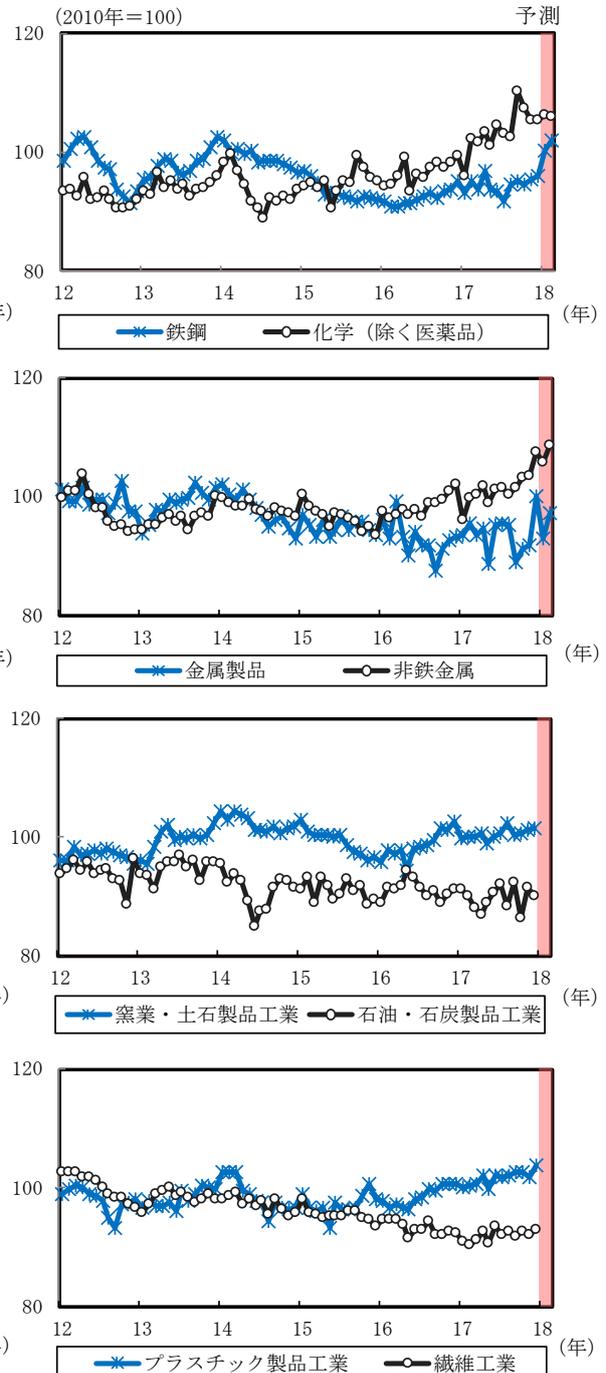
(注) 生産指数の直近2ヶ月の値は、製造工業生産予測調査。

(出所) 経済産業省統計より大和総研作成

図表 5 : 生産指数 加工業種



図表 6 : 生産指数 素材業種



(注 1) 直近 2 ヶ月の値は、製造工業生産予測調査。

(注 2) 製造工業生産予測調査のその他工業は、窯業・土石製品工業、石油・石炭製品工業、繊維工業の全部又は一部を含む。

(出所) 経済産業省統計より大和総研作成

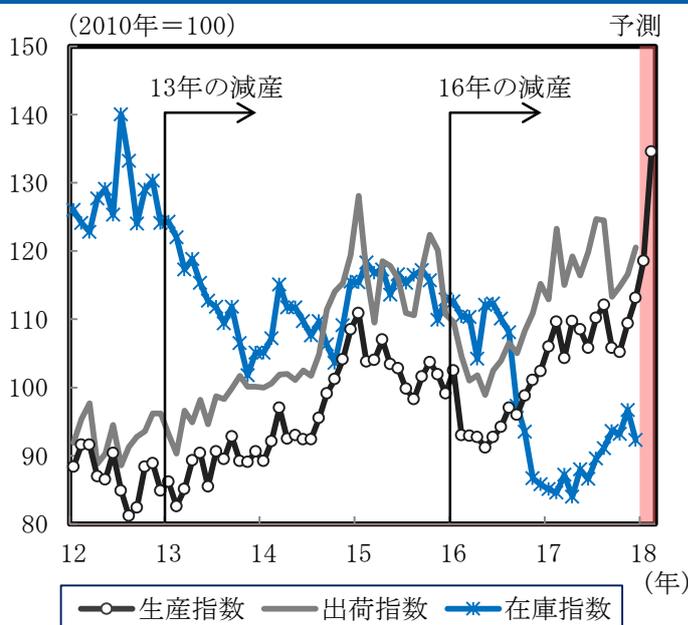
## 新型 iPhone の生産半減は、電子部品・デバイス工業の生産を▲1.9%下押しする可能性

また、製造工業生産予測調査では電子部品・デバイス工業の計画が強い（2018年1月：前月比+4.8%、2月：同+13.5%）。ただし、この計画には、1月29日に報道があった<sup>1</sup>「新型 iPhone の1-3月期の生産計画変更（当初計画の4,000万台超から2,000万台への半減）」の影響は反映されていない可能性が高い（1月調査の提出締め切りは1月10日）。2017年1-3月期のスマホの世界生産台数（3.2億台：TrendForce 調べ）をベースにすると、2,000万台の減産は全体の6.2%に該当し、日本の電子部品・デバイスの用途に占めるスマホを含む通信機器向けシェア（2017年1-3月期30.5%：JEITA 調べ）を踏まえると、当業種の生産を▲1.9%下押しすると試算される。

過去にも iPhone の新型モデルは生産計画を下方修正している。2013年には、2013年1-3月期の iPhone 向け液晶パネル発注を半分程度に減らす（約3,250万台分）との報道<sup>2</sup>があり、電子部品・デバイス工業の生産指数は、2012年10-12月期（期間平均87.4）から2013年1-3月期（同84.6）にかけて▲3.2%低下している。また、2016年には3割減産との報道<sup>3</sup>があり、2015年10-12月期（同101.6）から2016年1-3月期（同96.1）にかけて▲5.3%低下している。

他メーカーが販売シェアをどれだけ伸ばすか、シェアを伸ばしたスマホに日本製部品がどれだけ搭載されているかに影響を受けるため、上記の試算値は幅を持つ必要がある。ただし、世界的なスマホ販売の減速へと繋がる場合には、電子部品・デバイス工業やはん用・生産用・業務用機械工業の堅調な生産状況への下押しリスクとなる。

図表7：電子部品・デバイス工業の生産・出荷・在庫



(注) 直近2ヶ月の値は、製造工業生産予測調査。  
(出所) 経済産業省統計より大和総研作成

<sup>1</sup>日本経済新聞電子版（2018年1月29日）「iPhoneX生産半減1～3月計画比、高価格で不振」など

<sup>2</sup>日本経済新聞2013年1月14日朝刊「iPhone5 パネル減産 液晶大手、計画の半分」

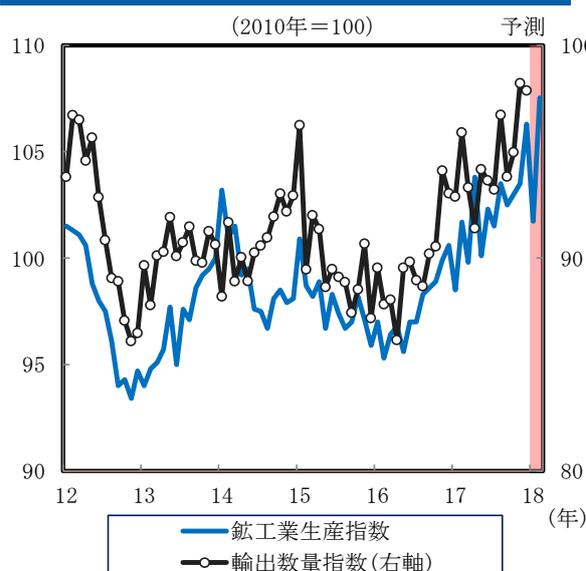
<sup>3</sup>日本経済新聞電子版（2016年1月16日）「アップル、最新iPhoneを3割減産 1～3月」

## 先行きは非常に緩やかな増産を見込む

2018年3月以降に関しては、非常に緩やかな増産を見込んでいる。資本財については、世界経済の回復を背景として、産業用ロボット等を中心とした輸出拡大が全体を牽引するだろう。一方、国内向けについては、維持・補修のための設備投資が今年度は期待されるものの、稼働率が横ばいで推移していることには留意が必要だ。

ただし、外需の下振れリスクには警戒が必要である。米国では、Fedが2017年に3回の利上げを実施し、2018年も複数回の利上げを行う可能性がある。これらに伴い米国の金利が上昇する場合には、米国経済の下押し圧力になることに加えて、新興国市場からの資金流出を招く懸念がある。また、ECBが2018年1月から資産買い入れの一段の圧縮を開始したことが、EU経済の下押し圧力になりうる点には留意が必要だろう。メインシナリオとして世界経済は緩やかな成長を続けるとみているが、世界経済の先行き不透明感が強まることとなれば、輸出減速を通じて日本経済を下押しするリスク要因となるだろう。

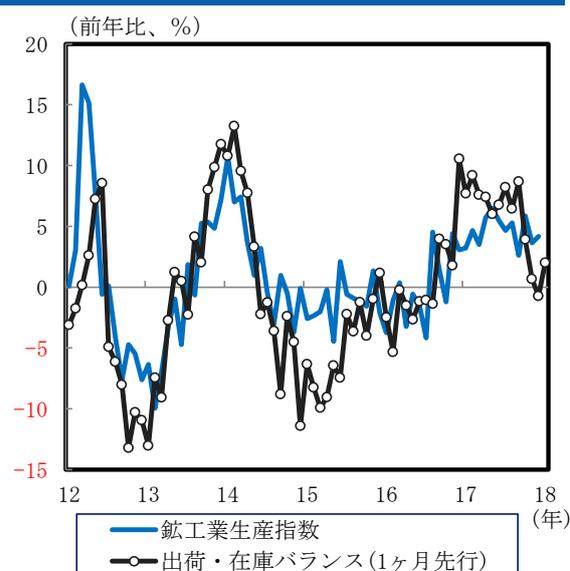
図表 8 : 鈇工業生産と輸出数量



(注) 鈇工業生産の直近2ヶ月の値は、製造工業生産予測調査。

(出所) 経済産業省、内閣府統計より大和総研作成

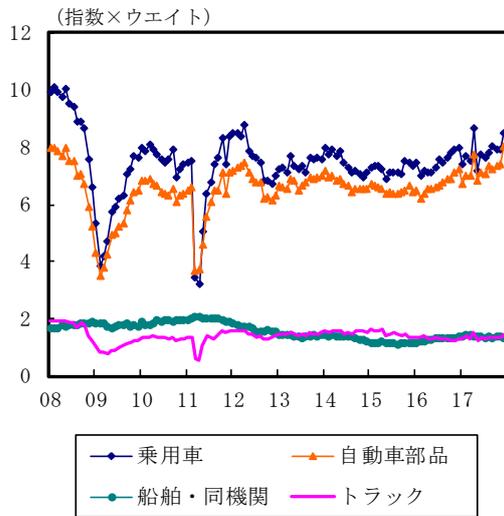
図表 9 : 出荷・在庫パランスと生産



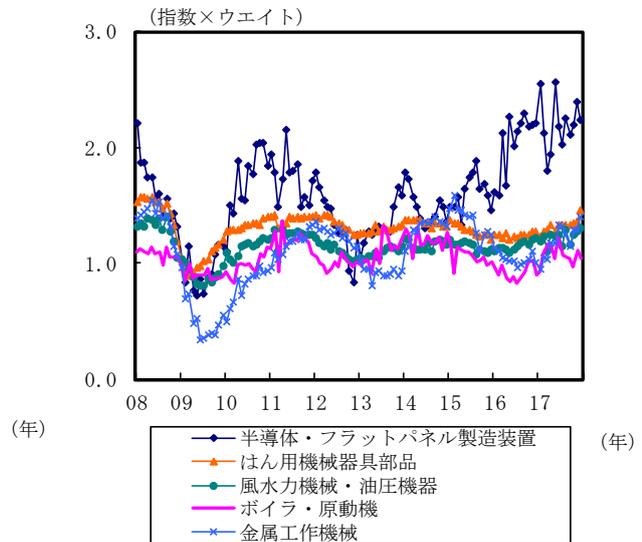
(出所) 経済産業省統計より大和総研作成

主要産業の生産動向(季節調整値)

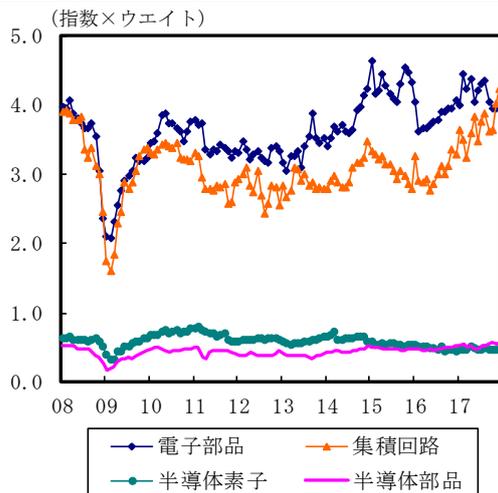
輸送機械



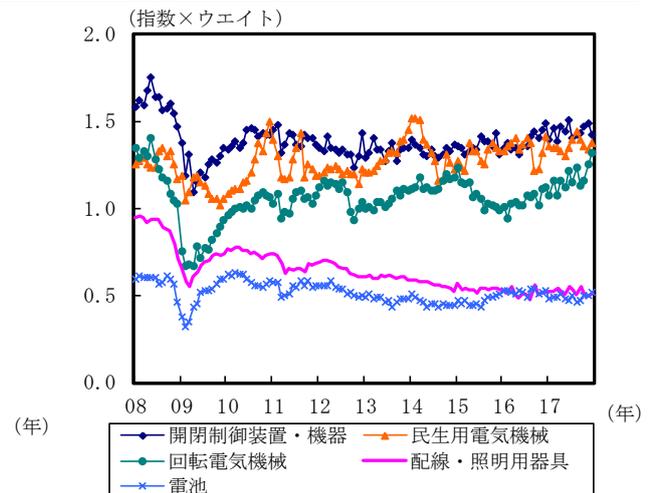
はん用・生産用・業務用機械



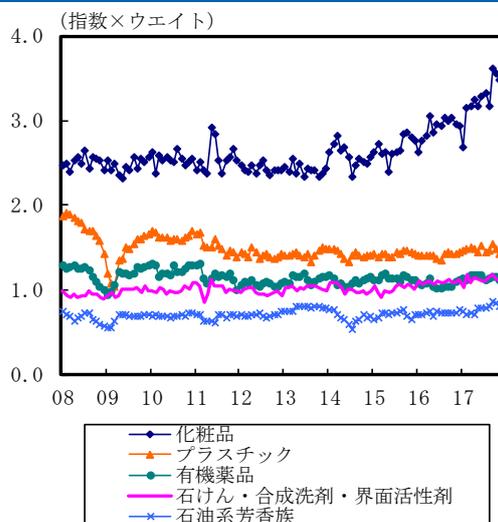
電子部品・デバイス



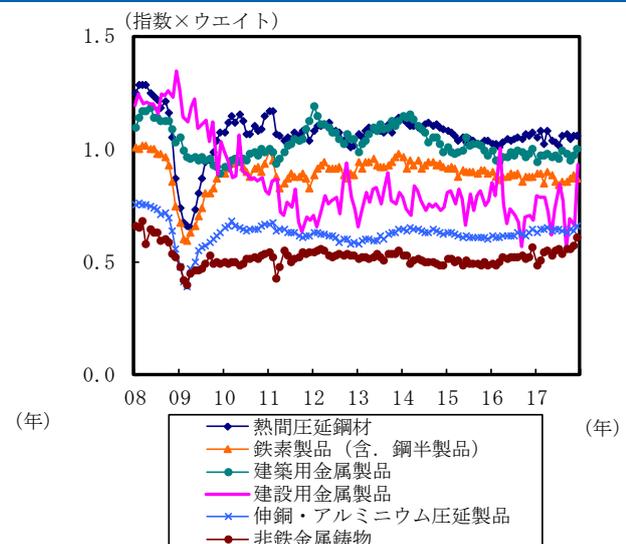
電気機械



化学



鉄鋼・非鉄金属・金属製品



(出所) 経済産業省統計より大和総研作成